

# SHOW HEY シネマルーム

★★★★★

## アバウト・シュミット

配給/ギャガ・ヒューマックス

2003 (平成15) 年3月11日鑑賞

<試写会>

Data

監督: アレクサンダー・ペイン

出演: ジャック・ニコルソン/キャ

シー・ベイツ/ダーモット・

マルロニー/ホープ・デイヴ

イス

### 👁️👁️ みどころ

保険会社勤務42年。66才の彼は今日定年退職の日を迎えた。「会社人間」から「自立人間」へ……。明日からは全く違う人生が始まる筈、だった。しかし現実……。現在の「たそがれニッポン」で、すべてのサラリーマンや中年男性がもつ不安をアカデミー主演男優賞にノミネートされたジャック・ニコルソンが見事に演じている。それにしても切ないネ……。

— \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \*

### <タイトルどおりの物語>

映画のタイトルは『アバウト・シュミット』。翻訳すれば「シュミットさんについて」というもの。つまりこの映画の主人公であるジャック・ニコルソン演じるウォーレン・シュミットさんについての物語ということだ。もっともこの映画が描くシュミットについての物語は、42年間勤めあげた一流の保険会社“ウッドメン”を66歳で定年退職する日、そして時計が退社時刻を指す1分前からスタートする。

それなりに満足し、充足感をもってやってきた仕事。自分は社会や会社の中でそれなりに役立つ人間だと何の疑いもなく信じてきた。そして定年退職の日、友人や同僚、後輩たちが定年退職を祝うパーティを開いてくれた。そこでは数々の暖かいスピーチが。さらにシュミットの後任者も、「シュミットの功績を誇りに思う。いつでも会社に遊びに来て下さい」とあいさつした。こうして楽しい1日が終わった。

### <さて、その翌日は……>

さてその翌日。シュミットさん、別に会社に行く必要もないのにきっかり朝7:00に目が覚めた。しかし、はて何をすればいいのやら……。悲しい悲しいサラリーマンの性

(さが)が浮かびあがる。会社勤めの42年間は長くて重い。すっかり「会社人間」になりきっていた彼はどのようにしたら、「自立人間」になれるのだろうか……。

ある日、「近くに来たもので、ちょっと寄ってみた」と会社を訪問。かつての自分の部屋へ行って、後任者に「何か問題はないか?心配な点はないか?」と無用な(!)おせっかい。しかし、「リタイヤ組」は暇を持って余していても、アメリカのビジネス社会の第一線の実動部隊は忙しい。ましてや管理職のハードさは当然。これはシュミットさんも知っている筈。従って後任者はひと言ふた言ご機嫌とりのあいさつをした後、「さて次の会議に出席しなければなりません。下までお送りしましょう」ときた。シュミットさんが期待したような昔話しや楽しい雑談など誰も興味がないわけだ。

### <妻の死亡、娘の結婚>

シュミットさんは、妻ヘレンの提案もあり、定年退職後のために大きなキャンピングカーを買っていた。定年後はこれで夫婦そろって各地を遊び回ろうという算段だった。しかしその妻ヘレンは、突然倒れて死亡してしまった。シュミットは突然「男ヤモメ」になっちゃったわけだ。保険会社に統計をやっていたシュミットは、66歳で妻に先立たれた男が7年以内に死ぬ確率は70数%とはじきだしていたが、何となくその予測どおり、次第にみじめな「男ヤモメ」状態に……。

ランドール(ダーモット・マルロニー)との結婚を決めていた一人娘ジーニー・シュミット(ホープ・デイヴィス)は、仕事と結婚式の段取りに忙しい。従ってヘレンの葬儀の後、父親の世話をするために家に残ることなど到底無理。一緒に住もうという父親の提案も一蹴して、彼の元へ帰ってしまった。シュミットさん、万事休すだ。とにかく何もすることがない。寂しいばかり。果たして人生をどのように考え、どのように生きていけばいいのだろうか……。

### <シュミットさんの手紙>

定年退職後、シュミットは何を思ったか、テレビで見たチャリティ団体の呼びかけに応じた。すなわち月々22ドルを募金してアフリカの恵まれない少年・ンドウグのスポンサー(養親)となったのだ。そしてシュミットは6歳の少年ンドウグにせつせと手紙を書いた。チャリティ団体からの要請は、養親となる人の個人的なことを書いてくれということだったからだ。

シュミットさん、当初はンドウグ少年に対してやさしく語りかけ、自己紹介をする手紙を書き始めた。ところが、筆が進み始めると、そこには今まで表に見せなかった自分の感情が次々と溢れてきた。すなわち、

不満その1、会社に対して、また後任の若造に対して。

不満その2、妻ヘレンの日常生活に対して。

不満その3、娘の夫となるランドールに対して。  
その他何もかも不満だらけ、だったのだ。

### <少子、高齢化の日本、長寿国日本の未来図そのもの>

シュミットは66歳だが、私は今54歳。もちろん「俺はまだまだ・・・」と思っている。この気持ちは誰も同じはず。しかし同時に「ひょっとして・・・」と誰もが考えているのも事実だ。今の経済不況とリストラが進む「たそがれ日本」ではなおさらだ。社会保障や年金、医療保険制度は改悪の一途。消費税のアップも近い将来だろう。

映画は要所所でユーモアを見せて笑いを誘う。しかし誰も、とりわけ男の観客は全員腹の底から楽しく笑っているのではない。その笑いは、どこか哀愁と不安を持った笑いだ。少しひきつっているかもしれない。そう、「そのうち、俺もこんなになるのか・・・」という思いがあるわけだ・・・。

### <ジャック・ニコルソンの名演技とアカデミー主演男優賞の行方>

今年のアカデミー賞の最多ノミネートは『シカゴ』の12部門13の賞だ。しかし主演男優賞にはノミネートされず、シュミットさん、すなわちジャック・ニコルソンが主演男優賞にノミネートされている。そして、「それもなるほどもっともだ」と誰にも思わせるジャック・ニコルソンの名演技だ。助演男優賞は『ギャング・オブ・ニューヨーク』のダニエル・デイ＝ルイスで決まり（坂和の独断）、そして主演男優賞は『戦場のピアニスト』のエイドリアン・ブロードベントと本作品『アバウト・シュミット』のジャック・ニコルソンとの争い、というのが私の予測だが、果たしてどうなるだろうか・・・。

2003（平成15）年3月12日記